

< 学校北～東通学路で見かけた植物～その 1 > 6 月 27 日午後、鹿嶋神社で観察の後、ぐるっと北側から東側にかけての道を歩いて学校に戻ってきました。その中で見られた植物たちの紹介です。まずは樹木から。

カキノキ(カキノキ科) *Diospyros kaki*



校庭にもありますが、神社近くの木ではこの日、たくさんの未熟な果実が落ちていました。そう、

第 7 号イチョウのところでお話したジュンドロップです。カキは普通、オスの花とメスの花が同じ木につきます。熟すと渋味を感じさせるタンニンが水に溶けなくなって甘く感じるようになるのを「甘柿」と呼びますが、富有(ふゆう) や 次郎(じろう) などのように種子がなくても甘くなる品種もあれば、禅寺丸(ぜんじまる) や 西村早生(にしむらわせ) などのように種子ができないと甘くならない品種もあります。また、熟しても渋いままの「渋柿」には 平核無(ひらたねなし) などがありますが、人工的に渋抜きしたり、干し柿などにして、おいしく食べることができます。すばらしい知恵ですね。秋が楽しみです。

キンギョツバキ(ツバキ科) *Camellia japonica* 'Kingyo-tsubaki'



ヤブツバキの園芸品種で、花はそっくりです。それにしても、おもしろい形の葉ですね。最初からこんな形なののでしょうか？それとも初めは普通のツバキの葉で、だんだんと形を変えていくのでしょうか？観察してみましょ。ところで、理科室前に掲示したタイサンボクの葉脈標本は見てくれましたか？これも葉脈標本にしたら、きっとおもしろいだろうなと思っています。やってみませんか？

ナツツバキ(ツバキ科) *Stewartia pseudo-camellia*



ツバキに似て夏に咲くからついた名でしょうが(学名の *pseudo-camellia* は、「にせツバキ」という意味)、別名「シャラノキ(沙羅の木)」ともいい、白い清楚な花から、お釈迦様が亡くなったときに近くに生えていたという沙羅樹に見立てたようですが、全くの別種です。ただし、平家物語の「沙羅双樹」はこのナツツバキのようで、ややこしいですね。[理科支援員 宮内]